地域おこし協力隊の活動紹介

問 SDGs移住定住推進課
(内線4224)



地域おこし協力隊とは三大都市圏などに住む人材を受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、将来的には石巻への定住・定着を図る国の事業です。市では既に29人を委嘱し、退任した17人のうち、13人が市内での就労または定住に繋がっています。各隊員の活動内容などを紹介します。

令和7年9月に石巻へ移住し、12月から地域おこし協力隊員として活動している、わらちゃんです!

普段は「プレーパークわたのは」を拠点に、プレーパークの運営や体験型子ども食堂の立ち上げ、野菜づくりに取り組んでいます。今年の8月には収穫祭を開催し、子どもたちとじゃがいもやピーマンを収穫。その場でフライドポテトを作って味わいました。育てて、採って、作って、みんなで食べる。そんな楽しさをもっと広げ、子どもと地域の大人が自然と顔見知りになれる場所をつくっていきたいです。

毎月第3日曜日は「わたのは第3日曜食堂」の運営にも参加しています。子どもの遊び場と、地域のお母さんたちのおいしいごはんがあります。お手伝いも年齢問わず大募集!ぜひ遊びに来てください♪





■隊員プロフィール　**氏名**　菅原　遥　**任期**　令和7年12月1日～(最大3年間)
出身　利府町(転出元 仙台市)　**前職**　サービス業
■主な活動内容　体験型子ども食堂事業の立ち上げや運営、情報発信、食や体験をきっかけに子どもと地域の人がつながる場づくりに取り組んでいます。
■隊員になったきっかけ　自分の不登校経験から、子どもが安心して過ごせる居場所を増やしたいと思い活動を行っています。

おらほの博物館!



「石巻」の地名がみえる
葛西晴信黒印状(かさいはるのぶこくいんじょう)

これは天正17年(1589年)4月29日付で葛西晴信が家臣である平塚越前守(ひらつかえちぜんのかみ)に与えた黒印状で、「石巻」という地名が現れる最古の史料です。葛西晴信は、登米郡寺池城(登米市)を居城とし、宮城県北部・岩手県南部の北上川流域と沿岸部から構成される広大な領域を治めた戦国大名です。晴信は、平塚越前守が望んだ牡鹿郡石巻の土地に加え、「丹後屋敷(たんごやしき)」を与えることを約束し、その代わりに葛西家への奉公を命じました。葛西晴信が発給した知行宛行状や網役の免許状は、いずれも牡鹿郡か遠島(とおしま)(牡鹿半島)を対象としていることから、この地域は葛西氏の支配領域の中でも直轄領としての性格を持っていたと考えられます。

天正17年は、6月に伊達氏と佐竹・蘆名品(あしなしな)氏が磨上原合戦(すりあげはらかっせん)で激突し、10月には伊達氏が須賀川二階堂氏を滅ぼすなど、奥羽では戦乱が継続している状況でした。翌天正18年、豊臣秀吉が小田原北条氏を滅ぼした後、東北地方の平定に乗り出した結果、葛西氏・大崎氏らは土地を取り上げられてしまいます。それに反発した旧臣らが天正19年にかけて葛西・大崎一揆を起こしましたが、秀吉の命を受けた伊達政宗によって鎮圧され葛西家は滅亡、旧葛西領は伊達家の手中に収まりました。

平塚越前守の子孫である平塚家は、江戸時代以降も石巻に居住し、代々家が続いていきました。平塚家に伝わった本史料は、令和6年に元応2年(1320年)～昭和28年(1953年)の伝来資料111点とともに寄贈され、現在は博物館が所蔵しています。

デジタルアーカイブはこちら

文化財(たんぼう)135

登録有形文化財(建造物)阿部家住宅(遠入(とおいり))
石巻市教育委員会生涯学習課



阿部家住宅(遠入)主屋

北境に所在する阿部家は、代々農林業を家業とし、近世には北境村の肝入(きもいり)を、近代には地主を務めた旧家です。集落の遠くに入った場所に主屋を構えることから、「遠入(とおいり)」という屋号で呼ばれています。

石巻地域は、北上川とその支流によって豊かな農地が広がり、近世から近代にかけて田畑の開発と利用を担った豪農が躍進しました。阿部家もその一端を担い、広大な敷地には、現在も多くの建物が残されています。その多くは雄勝石製のスレート瓦が葺(ふ)かれており、当地域の歴史的景観を今に伝えています。

「国土の歴史的景観に寄与している」などの理由から、令和8年2月に、主屋・長屋門・文庫蔵・東土蔵・米蔵・板倉・石蔵・氏神社・石鳥居の9件が、登録有形文化財(建造物)に登録されました。阿部家住宅は、スレート瓦を葺いている点が特徴であり、これらの建物が立ち並ぶ屋敷構えは、地域の豪農の暮らしと繁栄を今に伝えています。

特に主屋は、神社仏閣に多く見られる格式高い工法である「入母屋造(いりもやづくり)」が採用されており、腕利きの大工集団である気仙大工による精巧な彫刻が随所に見られます。スレートを用いた洋風のデザインを取り入れながらも、軒の反りなどには伝統的な和風建築の特徴が残されており、独特の近代和風建築といえます。

今回登録された9件は、当地域における豪農の屋敷構えと、近代に発展したスレート葺き和風住宅の姿を今に伝える貴重な建造物群です。今後もその歴史的価値を大切に守りながら、地域の歴史や文化を後世へ伝える文化財として、末永く受け継がれていくことを願っています。